

# 千秀だより

横浜市立千秀小学校

7月号

平成27年(2015).7.1



7月となりました。水泳学習も始まり、夏の到来を感じる季節となりました。日本では、7月を古来、文月（ふみづき）と呼んでいました。その由来は、7月7日の七夕に詞歌を献じたり、書物を夜風にさらしたりする風習があるからというのが定説になっているそうです。また、稲がどんどん株分かれする含む月であることから「含む月」とする説もあります。とすると子どもの世界に合わせれば、7月は多くの学びに心懸け、取り組んだ分だけ、成果となって膨らんでいく月であるともいえるでしょう。一方、7月は夏休み前のまとめの月でもあります。子ども達は、4月に立てた目標の実現に向けて頑張って参りました。その努力の過程や、中には反省することも含めて、夏休み中に、ご家庭で話し合う時間をつくっていただければ幸いです。そのヒントになるか分かりませんが、中国の故事を紹介致します。

ある村に一人の少年がいました。その少年はとてもお腹がすいていたので、川で釣りをしている老人に「魚を一匹ください。」とお願いをします。しかし、老人はそれを断り、少年にこう言います。「私がこの魚をお前に与えれば、とりあえずお前の飢えは満たされる。しかし、また腹をすかせることになるだろう。だから、魚を与えるのではなく、魚の釣り方を教えてやろう。そうすれば、お前は一生食べていくことができるだろう。」

このお話は、「魚を一匹与えれば一日腹が満たされる。釣り方を教えれば一生腹が満たされる。」ということわざのもとになったお話です。

このお話は教育のあるべき姿を表しているとも言えます。例えば算数の学習で考えた場合、教師や保護者の方が問題を解いてしまっただけで解答のみを子どもに与えるのは「魚を与えること」にあたり、子どもと一緒に問題を解いて問題の解き方を教えるのは「釣り方を教えること」にあたりと考えられます。日常生活でも同じように、明日の学習用具の準備を全て保護者の方がしてお子さんはランドセルを背負うだけというのは「魚を与えること」であり、お子さんと一緒に準備に取り組んで、そのコツを教えるのは「釣り方を教えること」であると考えられないでしょうか。

学校という新しい世界での生活を身に付けた1年生。運動会やスマイル縦割り活動を通して最上級生としてのあり方を学んだ6年生。千秀小の児童は、今学期もたくさんの「釣り方」を学び、身に付けてきました。本来、子どもはやりたがり、意欲に満ちていると言われます。教室で学んだことを日常生活の中で生かしてほしいと願うのは、保護者の方も同じだと思います。これから夏休みまでの3週間、学校でも、たくさんの「釣り方」を学んだ自分を振り返り、釣り逃した魚を追いかけて、夏休み前のまとめをして参りたいと思います。繰り返しになって申し訳ありませんが、ご家庭でも是非お子様と、この三ヶ月間の取り組みの様子を振り返り、話し合ってくださいと思います。

そのご褒美という所もありますが、夏休み直前の18日（土）には、PTAが主催しての「千秀まつり」が開催されます。例年の楽しい会に加えて、今年度は、特別に神奈川県 警察音楽隊・カラーガード隊が、ご自慢の演奏とドリルを披露して頂きます（11:00～11:30）。ご存じの方も多いと思いますが、県警音楽隊は全国でもトップクラスのマーチングバンドです。それを生で、しかも間近に目にする機会はなかなかありません。是非多くの方を誘い合ってくださいと思います。

